

ニューフェイスコーナー

これまでとこれから

下松医師会 かとう整形外科クリニック

加藤 秀豊

令和元年11月、下松市瑞穂町に新規開業させていただきました。

私は子供のころはやや落ち着きがなく、耳がちぎれて受診、鼻骨を損傷して搬送、ウイルス性髄膜炎になって入院、交通事故に遭い搬送・・・と医療機関の方々に大変お世話になったと思います。その中で漠然とお医者さんはかっこいいとかお邪魔させていただいた開業の先生の広くて暖炉のある家はすごいなと子供心にあこがれをもったものでした。

出生は長野県佐久市、小中高時代の生活基盤は千葉県市川市ですが、縁あって山口大学医学部へ進学することになりました。学生時代はのびのびと山口県を満喫し、硬式テニス部に入り勉強はほどほどでしたが充実した学生時代を送りました。都会の生活に息苦しさを覚えることもあり、山口県を第二の故郷として生きていこうと決めました。

山口大学整形外科、前々教授の河合伸也先生に師事すべく入局しました。まずはいっばしの整形外科医になりたいと自分なりに努力し、病院勤務日々の生活も充実していました。山口大学病院、山口労災病院、新南陽市民病院、下関厚生病院と研修医時代は恵まれた環境で貴重な経験を積ませていただきました。河合教授が退官され、田口敏彦前教授に師事しました。田口教授からは脊椎外科を志す理由や、医者としてのキャリアゴールは教授になるか、病院長になるか、開業医になるかとの趣旨の話をお聞きすることがありました。しかし、教授になるなどは全く自分のなかで選択肢に上がりませんし、病院長になるというのも人格者たるイメージで私には無理かな、開業医は家

系的に続いてなるものというイメージで、自分は終生勤務医か、などと思っていました。田口教授の退任時期も近い平成の終わりごろになると、同期が家業を継ぐ話、新規開業をする話などもちろほら増えてきて、自分にはあまり関係ないとは思いつつも、自分もそういう世代になっているのだと思いました。光市立光総合病院では桑田憲幸院長の下で自由に診療の幅を持たせていただき、有意義な11年間を送らせていただきました。この間に3人の娘にも恵まれました。家族を守り、趣味のテニスの大会にも出場し、医療者として社会貢献を果たすべく日々を送ってまいりました。そんな時ですが「開業について検討してみませんか」というお話があり、「話を聞いてみようかな」とのところから始まり、勤務医ではない働き方も経験したい、田口前教授の話を思い出し開業してみようかという気持ちが強くなっていきました。開業にあたり光市立光総合病院の桑田憲幸院長、山口大学整形外科の坂井孝司教授にはご指導、ご理解をいただき大変感謝しております。

開業をすると決めた後の計画実行期はとても楽しい時間でした。開業場所、建物の検討、医療機器選定、一緒に働いてもらうスタッフの募集、各種届出のお願い、スタッフ研修のため宇部の東整形外科医院の東良和先生には開業にあたり、多岐にわたって詳細にご指導いただきました。スタッフ全員が1週間にわたり研修させていただきました。まつなが整形外科クリニック、松永経光先生のところへもスタッフとともに邪魔させていただき、温厚な診療スタイルに感銘しました。ご多忙中、親身に対応していただき改めてお礼申し上げます。

竣工祭、棟上げ式、餅まきとわが子供たちも楽しんで、また餅まきしたい！と言われたものの、次は家を建てるときくらいかな、人生の中でそう何回もないよね、と話ながら盛り上がっていました。一方で、開業資金は結構な借金の額で、返済できるのかしらと不安にもなりました。内覧会あたりからは少し緊張しましたが、たくさんの方に来院していただき、頑張ろうと決意を新たにしました。

令和元年11月7日開業。総合病院のようにすぐ検査や入院対応はできませんが、クリニックとして提供できる医療を充実させていこうと試行錯誤しながらも、良好な滑り出しと思われました。しかし、翌年には新型コロナウイルス感染症が問題になり感染対策で気を遣いました。なんとか第5波までは乗り切りましたが、早く収束することを願いながら運営しなければなりません。約2年経過しましたので今は笑い話ですが、開院の届け出とともに提出すべき運動器リハビリテーション施設認定の届け出を出し忘れるという大失敗をしておりました。運動器リハビリテーション提供分は初月すべて査定される事になり、かなりの査定額にショックを受けました。申請をさかのぼって厚生局が認定してくれるはずがなく、翌12月までの運動器リハビリテーションは消炎鎮痛処置算定しかできないため大バーゲン状態でした。査定の返金作業も大変で、事務スタッフにはだいぶ負担をかけてしまいました。患者さんの診察にも全体的に時間がかかり、当初スタッフにはかなり時間外勤務をお願いし、患者さんからの長い診療待ち時間へのクレームの対応に苦労・心労をかけました。スタッフも皆頑張ってくれましたが、自分の生活との兼ね合いが取れず辞める選択をする方も何名

かあり、自分も含めスタッフの生活と仕事を両立して充実させながらクリニックをうまく運営していくための人事は非常に難しいと認識しました。現在は個々の能力も格段に上がっているので診療スタイルはほぼ変わっていませんが、無駄な時間外は少なくなってきました。スタッフの労働環境も当初よりは随分改善できてきてはいるのかなと思います。ライフワークバランスはもっと考えなければいけないと思っています。開業したことをきっかけに、テニス以外の趣味をとアルトサックスを習い始めました。同時期に長女と次女が吹奏楽部に入りましたが、あっという間に上達する子供たちと裏腹に私はまだあまり上達できていません。楽器のお手入れがなっていない、リードの締め具合が悪い、練習もしない、と子供たちに突っ込まれますが、新型コロナウイルスの流行のため音楽教室に習いに行けないためだと言い訳をしています。

整形外科医としての使命は運動器の観点から、ケガや病気からのスポーツや社会復帰のお手伝いをし、人生の健康寿命を延ばすことだと思います。外傷治療、スポーツ障害、高齢化社会の進行に伴う退行性病変、リウマチ疾患など多様なかわりがありますが、整形外科としての専門性を活かし診療を充実させて、適切なタイミングで手術や治療が必要な人は紹介させていただくこと、さまざまな保存的治療の見極めをしながら適切な治療を提供していくこと、運動器の機能を取り戻すためのリハビリテーションを充実させること、他科との連携も図りながら地域医療に貢献することを目指して頑張りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

